令和８年度　第１回大阪市地方独立行政法人天王寺動物園評価委員会　議事要旨

■開催日時：令和８年７月７日（火）13：30～14：50
■開催場所：天王寺動物園　学習棟だいしんわくわくホール（大）
■出 席 者：
（委　員）　高坂　佳詩子　弁護士法人色川法律事務所　弁護士
　　坂本　治也　　関西大学　法学部　教授
　　野田　英樹　　帝京科学大学　生命環境学部　准教授
　　原　久美子　　公益社団法人日本動物園水族館協会　専務理事
　　水上　啓吾　　大阪公立大学大学院　経営学研究科　教授

（大阪市）　佐々木　康晴　建設局公園企画運営担当部長
　　秋山　岳彦　　建設局公園緑化部事業所企画調整担当課長
　　吉﨑　英一郎　建設局公園緑化部調整課動物園支援担当課長代理
　　小池　正純　　建設局公園緑化部調整課担当係長
　　外２名

（法　人）　計８名

【議事要旨】
１　開会

２　委員長の選出および職務代理者の指名について
・委員長：水上委員
・職務代理者：原委員

３　地方独立行政法人天王寺動物園の令和７年度業務実績評価について
資料１について法人より説明
＜意見＞
- 動物の逸走は動物園にとっては重要な事案である。ゼロにすることは難しいだろうが、近づけるように努力いただきたい。（原委員）
- 個人情報の漏洩事案は、ファンクラブ会員の台帳管理におけるケアレスミスであったとのことだが、今後、会員数の増加なども考慮すると、現在の Excel データによる管理ではなく、システムの導入なども検討してみてはどうか。（高坂委員）
- １ページのあるべき姿（中期目標抜粋）の来園者の行動変容を促す教育活動という項目について、中期目標では、「生態系に関する理解や関心を深めていただく」というテーマに対し、行動変容が最終目標となっていることに違和感がある。この行動変容を来園者に促すことは非常にハードルが高い目標であると考えている。評価項目については、来園者の意識あるいは行動が

どう変わったかというわかりやすい項目にしてはどうか。（坂本委員）

- ヒヤリハット事例の共有などは重要であるが、事務負担も大きいと思う。そのため、人的ミスが発生することを前提に安全対策の仕組みを作っていくことも大事だと考える。（水上委員長）

資料２・３をもとに市評価について事務局より説明

＜意見＞

- 各小項目に対する市の評価案は妥当であると考える。（全員）
- 小項目17にあるハズバンダリートレーニングや環境エンリッチメントは動物福祉向上のための手段であるが、実施種数を目標に設定しているため、その達成自体が目的になりかねない。数値ありきではなく動物福祉の向上に重心をおいた取組を進めてほしい。（野田委員）
- 小項目19について、予定通り獣舎整備が完了したということでⅢ評価となっているが、労務単価や資材費の高騰といった昨今の情勢からみても工期の遅れや、工事費の増額リスクはある。そういった中で、工期・予算内で整備を完了した法人の努力を評価したい。（原委員）
- 小項目23について、これまでの活動が認められ、オオサンショウウオの園単独での調査が可能となるなど、日本産動物の生息域内保全に積極的に取り組んでいる点は高く評価できる。（原委員）
- 小項目25について、論文を数多く投稿することで知見の共有をさらに促進していただきたい。（原委員）
- 項目28～30の人材確保・育成関係について、人材の確保については将来の組織運営にかかる重要な取組であるため、現状を分析してしっかり対応いただきたい。（高坂委員）
- 小項目33の入園料収入・入園者数の目標設定について、安易に右肩上がりの想定を組むのではなく、少子化や猛暑といった減少要因を考慮した上で設定すべき。また、こういった状況の中で、前年並みの入園者数が維持できていることは評価する。（坂本委員）
- 小項目33について、企業との連携は引き続き継続いただきたい。（高坂委員）
- 小項目38について、小項目19とも関係するが、予算内で整備が完了した点は評価できる。昨今、建設コストも想定より上昇していると聞くが、目標値に縛られて、本来実施すべき事業ができなくなることがないよう適切な目標設定が必要。（水上委員長）
- 全般を通じて、小項目の評価事例にⅣ・Ⅴ相当例の設定がない等、５段階評価になじまない項目がある。法人が努力をしている一方で、Ⅲ評価が並ぶと努力不足と捉えられてしまう懸念がある。今後、量的評価ができるものは５段階評価、それ以外は達成・未達成・一部達成等で評価するなど、評価事例の変更についても検討いただきたい。（坂本委員）

４　閉会